

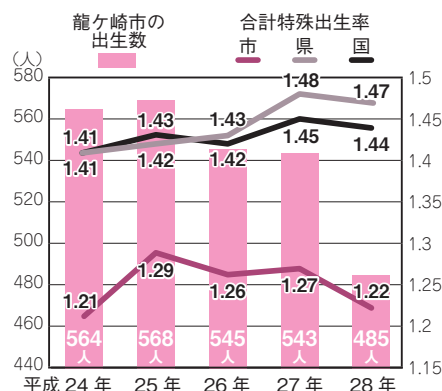
合計特殊出生率は前年比微減。出生数も 500 人割れ 次代の意識は…「結婚したい?」「子どもは欲しい?」 ～少子化の現状と次代の親アンケート調査結果報告～

■問い合わせ：こども課子育て支援グループ ☎内線 247



厚生労働省が今年 6 月に発表した平成 28 年の国の人口動態統計(速報値)によると、我が国の出生数は初めて 100 万人を割り、97 万 6,979 人で、1899 年の統計開始以降過去最少となりました。15 歳から 49 歳の女性の年齢別出生率を合算した「合計特殊出生率」は 1.44 で、前年から 0.01 ポイント低下しました。一方、死亡数は 130 万 7,765 人で、こちらは戦後最多となりました。これにより、死亡数が出生数を上回る「自然減」は 10 年連続となり、人口減少が続いています。

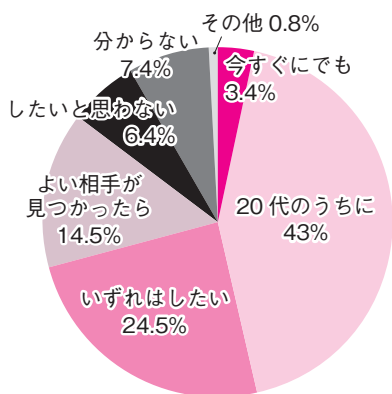
本市で見ると、平成 28 年の出生数は 485 人で、初めて 500 人を割りました。死亡数は 702 人で出生数を上回り、こちらは 8 年連続の自然減となりました。また、合計特殊出生率は 1.22 で、前年の 1.27 から 0.05 ポイント低下しました。



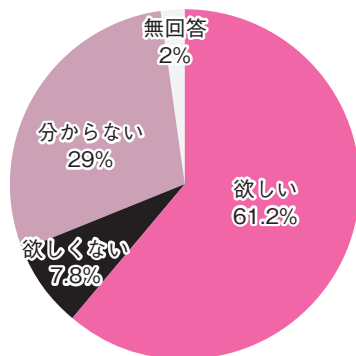
高校 2 年生 551 人に聞きました！

本市では、市内の高等学校（龍ヶ崎第一・龍ヶ崎第二・龍ヶ崎南・愛国学園大学附属龍ヶ崎）で学ぶ 2 年生を対象に、平成 25 年度から意識調査として「次代の親アンケート」を実施しています。平成 28 年度は 551 人（女性 310 人／男性 241 人）が回答しました。アンケートの結果についてお知らせします。

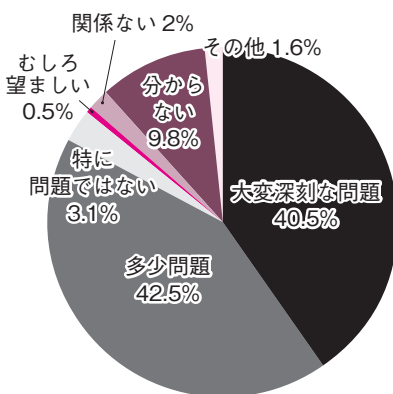
■結婚したいと思いますか？



■将来子どもは欲しいですか？



■少子化が進むことは問題？



今回で 4 回目の「次代の親アンケート」。「少子化が進むことは問題」だと感じている生徒の割合は増加傾向にあるものの、「結婚したいと思う」「将来子どもは欲しい」と考えている生徒の割合は、ほぼ横ばいだった過去 3 回のアンケート結果に比べ、いずれも減少しました。

本市では、平成 29 年度からのまちづくりの基本方向を示す最上位計画「第 2 次ふるさと龍ヶ崎戦略プラン」で、「若者・子育て世代の定住環境の創出」を戦略のひとつに掲げています。また、昨年 12 月には「龍ヶ崎市子育て応援都市宣言」も行いました。若い世代の各ライフステージ（出会い・結婚・妊娠・出産・子育て・教育など）に応じた切れ目のない支援を展開することや、家庭・学校・企業を含めた地域社会全体で子育てを支えていく社会の実現を目指しています。

